

むらた歯科通信

No.19 November

発行年月日
2015年11月1日

発行人
むらた歯科クリニック



今月の特集

歯周病と糖尿病の関わりについて

歯周病はお口の中だけの問題と思われがちですが、実は全身に関わる病気とのつながりがあるのをご存知ですか。その一つが糖尿病です。

「糖尿病があると歯周病にかかりやすく、歯周病があると糖尿病にかかりやすい」ということは今や常識と言っても過言ではありません。

糖尿病とは？

糖尿病は、体内のインスリンが不足して慢性的な高血糖状態になる病気です。糖尿病はその原因により4つのタイプに分けられています。

① 1型糖尿病

若い年齢の発症が多く、体内でインスリンを作ることができないために高血糖を引き起こします。

② 2型糖尿病

日本人のほとんどがこのタイプに含まれます。インスリンの分泌量が不足したり、働きが悪くなったりすることが原因です。

③ そのほかの疾患によるもの

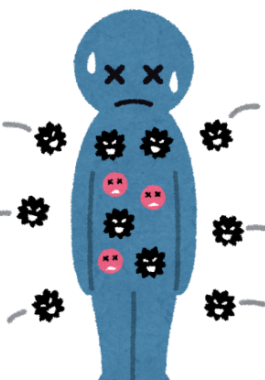
遺伝子異常や肝疾患、膵疾患によるものなど様々です。

④ 妊娠糖尿病

妊娠中の情勢ホルモンの変化により糖尿病になりやすくなります。通常は出産後、正常に戻ります。

糖尿病の症状

糖尿病の症状としては、口渇、多飲、多尿、体重減少、体力低下などがあります。また、感染に対する抵抗力が弱くなるので病気にかかりやすくなったり、傷の治りが悪くなったりすることがあります。



歯周病との関係

糖尿病によって高血糖状態になると、糖を好む歯周病菌が増えてしまいます。また、病原菌と戦う好中球の機能を低下させたり、歯周組織を修復する細胞の機能異常を引き起こします。このために歯周病が悪化してしまいます。

さらに歯周病も糖尿病を悪化させる原因となります。歯周病によって歯周組織に炎症が起こると、炎症メディエーターと呼ばれる化学物質が作り出され、血液の流れに乗って全身に運ばれます。この流れてきた物質により、糖の分解が妨げられることでインスリン抵抗性の環境が作られ、血糖値の上昇を引き起こすのではないかと考えられています。

症状を悪化させないためには

このように歯周病と糖尿病には相互関係があるため、どちらか一方ではなく両方の病気に対しての対応が必要になります。

糖分の摂り過ぎに注意し、バランスの良い食生活を心がけたり、適度な運動をして肥満を予防することは糖尿病の予防につながります。

また、患者さん自身が自分の身体の状態を把握し、適切な血糖コントロールをしていくことが大切です。

歯科治療においては、炎症の原因となるプラークの減少をはかるため、定期的なお口の中のクリーニングや歯磨き指導を行い、歯周病の症状の改善を目指します。

糖尿病は歯周病以外にも様々な合併症を引き起こす大変やっかいな病気です。今一度生活習慣を見直して、病気の予防につなげていきましょう。



11月8日はいい歯の日
歯科検診を受けましょう！